



バイオリアクターの先達 故 千畑一郎博士を偲ぶ

日本生物工学会 元副会長・名誉会員

元田辺製薬株式会社 副会長 土佐 哲也

本会の元副会長（昭和58年～61年在任）千畑一郎博士は平成27年10月2日89歳にて天寿を全うされました。

千畑博士は大正15年8月6日に大阪府でお生まれになり、昭和23年3月京都大学農学部農林化学科を御卒業後、同年4月に田辺製薬株式会社に入社されました。長年、研究所に勤められ、光学活性アミノ酸の製造とその利用研究に携わられました。アミノ酸の製造研究の中でも、酵素法による光学活性アミノ酸の製造は一般的にもよく知られた技術となりました。その後、この研究は固定化酵素から固定化微生物を触媒として使う、「バイオリアクター」へと発展しました。「バイオリアクター」の世界最初の工業利用として非常に高く評価され、昭和58年9月米国で開催された「Enzyme Engineering Conference（国際酵素工学会議）」において、「第1回国際酵素工学会賞」を受賞されました。これらの一連の研究・業績に対して、本会からも昭和59年11月に「醗酵工学の発展に対する顕著な貢献」として「第3回醗酵工学会賞」を受賞されています。

このような素晴らしい技術で製造された多くの光学活性アミノ酸は医薬品あるいは食品添加物として広く利用されています。また、各種アミノ酸を含む「アミノ酸輸液」の研究にも力を注がれました。多くのアミノ酸輸液が世の中に供給され世界中の患者さんに使われています。その結果「アミノ酸の田辺」という地位が確立されました。

千畑博士は、応用生化学研究所所長を経て、昭和60年に専務取締役研究開発本部長に昇任され、会社の発展のためには世界に通用する「Innovative Global Product」を創らないと世界に伍していけないと、研究開発部門の社員を日夜叱咤激励されました。平成元年に研究開発部門出身者として初めて代表取締役社長に就任され、「研究開発型国際企業」を目指して会社経営に尽くされました。その一端として、平成2年に米国カリフォルニア州サンディエゴに「Tanabe Research Laboratory USA」を設立されました。この研究所は、最先端のバイオ関連技術の研究開発と情報収集を目的として現在も活動しています。

千畑博士はその先見性を薬業会の活動にも発揮され、医薬品産業の健全な発展に尽力されました。経済界からも技術系経営者としての実績・見識を高く評価され、関西経済界連合会の副会長を始め、各種団体役員を歴任し、産業界の発展にも力を注がれました。

一方、仕事を離れては、お酒を楽しまれるとともに、工芸、絵画、音楽など幅広い趣味をお持ちであったことは多くの方が御存知の通りです。

筆者も昭和32年4月に田辺製薬株式会社に入社後、直ちに千畑博士の御指導を受けることになり、58年間公私共にお世話になったことを、大変有り難く感謝しております。心からご冥福をお祈り申し上げます。

千畑博士は数々の御受章をされていますが、本文中に記述したものの以外で代表的と思われるものを下に記しておきます。

昭和51年 4月	科学技術功労者賞 科学技術長官賞
昭和52年 11月	紫綬褒章
昭和54年 8月	ヴィルタネン記念賞（フィンランド）
平成 7年 9月	国家功労勲賞オフィシエ章（フランス）
平成12年 4月	勲二等瑞宝章
平成13年 5月	レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ（フランス）
平成27年 10月	従四位 叙位